

30-0800

コーヒーによる 2 型糖尿病予防効果の分子基盤 (第 5 報) セルフメディケーションに活用するためのエビデンス (文献考証)

○岡 希太郎¹, 鏡 圭介¹, 杉本 沙穂¹, 原 貴史¹ (¹東京薬大薬)

【目的】フラミンガム・スタディーを契機に、高血圧と糖尿病治療のエンドポイントは心血管系疾患リスクの軽減とされてきた。ニコチン酸 (NA) とメーラード反応産物 (MRPs) を含むコーヒーが糖尿病を予防するならば、コーヒーの用法・用量を最適化することも可能である。現行の糖尿病治療法と比較して、セルフメディケーションに活用するための科学的根拠を探ってみた。

【方法】MedLine を利用して、NA, acipimox, diabetes, cardiovascular disease, coffee を単独または組合せて検索した。Title と abstract から重要と思われる原著を抽出して精読の上、自験例と併せて以下の考察を得た。

【考察】コーヒーの糖尿病予防効果には十分な信頼性がある。有効成分は HM74 受容体アゴニストであり、NA は血中 FFA と TG を抑制し、HDL-C を上昇させるなど、脂質代謝全般を改善する優れた臨床薬理学的特徴を有している。多数の HM74 アゴニストが MRPs の肝代謝によって産生し、NA 特有の FFA リバウンド現象を解消している。一方、NA は糖尿病に使い難いとの説は、除放剤開発によって解消した。除放剤をスタチン系薬と併用すると HDL-C の確実な上昇が認められ、リスク軽減への寄与が増大した。さらに強力な HDL-C 上昇薬として CETP (コレステリルエステル転移酵素) 阻害薬とスタチンの合剤が海外で治験中であるが、OTC 薬としての NA と化粧品添加物の MRPs はずっと低価格である。

結論として、コーヒーに由来する HM74 アゴニストを、総コレステロールを低下させる薬物療法または生活習慣と両立させれば、開発中の新薬に匹敵する程に有効な糖尿病予防法が成立すると考えられる。